



作業をもちいる療法

- Therapy by real occupational activities -

Hiroshi Yamane ; OTR, PhD
Chairman of Society of Human and Occupation-Life:SHOL
Professor Emeritus of Kyoto University

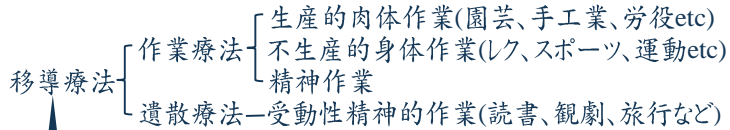


日本の作業療法は
二〇世紀初頭に
ヨーロッパで学んだ
精神科医達によって始められた
作業療法の源流には
すでにひとの生活行為としての
作業の機序が述べられている
歴史的航跡のたどりから
先駆者の気づきを



歴史的航跡:明治の先駆者たちが学んできたこと

呉 秀三 (1865～1932) 1898～1901年欧州留学。クレペリンを中心とするドイツ精神医学を紹介。ドイツで学んだ作業療法を現東京都立松沢病院で実践、無拘束と作業により隔離、監置、器具による拘束処遇一掃。松沢病院院長と東京帝国大学医科大教授を兼任し患者の人道的待遇の改善に努力。



「移導療法は叡智的療法の一つにして、病人の観念思想が病のために常規を逸せるをば他に移動することによって正道に復せしむるを目的とする」呉

目的を持って精神活動を行う

- 観念は意識の外に、そして本来の精神活動が再開
受動的な生活から能動的な生活へ 興味の回復
- 安静になり、催眠剤の使用も少なくなる
妄想の発現を遮り、寛解状態に導く

歴史的航跡:明治の先駆者たちが学んできたこと

Hermann Simon (1867～1947) Saargemünt病院で勤務後、1902年Westfalen州立病院を経て、1905年Warstein病院院長。

精神病院における積極的治療(強化能動的療法)
; Aktivere krankbehandlung in der irrenanstalt

- 臥床、拘束による廃用性機能低下 → 無拘束、開放、作業
- ひとの関わり → 親しみのある導き、垂範
- 作業の種類 → 治療効果を優先して選択
病状に合わせて選択し段階づける
正常で健全な行動欲
惰性で楽な作業依存を避ける

集団と環境への配慮
鎮静剤の使用は短期間



「人生は活動にあり、無為は諸悪、後輩の根源」をモットーに、監置・拘束の反省から臥褥療法が行われたが、孤立化や硬直化をまねくことから道徳療法を基盤とする積極的治療を行った

歴史的航跡:作業治療でわが国初の学位取得

加藤普佐次郎(1887~1968)現東京都立松沢病院で呉に師事し、患者の社会復帰の前提は解放生活にあり、作業治療(作業療法)と並行して行うことを主張。「患者と共に働き、生活する」ことを実践し、ドクトル・モックという尊称で呼ばれていた。

「精神病患者に対する作業治療ならびに解放治療の精神病院におけるこれが実施の意義および方法」(1925)



→ 用いた作業の種類

屋外作業:土木工事(建築基礎、庭園修理、築山、井戸掘り、埋め立て、架橋、etc)、農業、畜産、園芸、建物修理、運搬、除雪他
屋内作業:下駄鼻緒制作、裁縫、洗濯、藁細工、紙捻細工、袋貼、麻糸紡ぎ
特殊作業:事務補助、医務補助、機関部補助、理髪補助、炊事部補助、看護人補助、院庭掃除、地震災害時応急復旧作業、砂利採取、製茶、農耕、舎宅留守番、舎宅掃除、舎宅使い歩き

その使い方によって生活療法で問題とされた作業「生活行為」がすべて活かされて使われ、いわゆる症状として観られていた問題行動の消失が効果として体験されている。今の時代に何を活かすかが問われる。

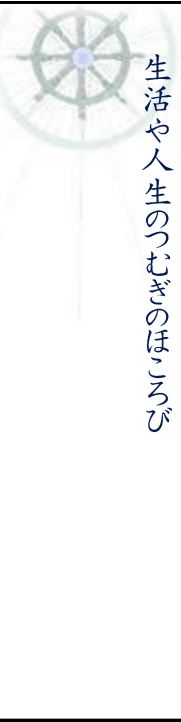
歴史的航跡:管修はすでに気づいていた

管修(1901~1978)東京府立松沢病院で作業をもちいた治療を実施し、戦後は神奈川ひばりヶ丘学園長、日本精神薄弱者愛護協会会長をつとめ、国立秩父学園、国立コロニーのぞみの園の開設運営につくした。




作業療法の奏効機転要約(精神経誌77)

1. **作業欲**は本来人間の**基本的欲求**の一つ
心身の健康や障害に大きな影響がある
2. 適度であれば心身諸機能の**活動促進**, 機能低下防止
3. 新陳代謝増進、食欲、便通、睡眠その他体調をととのえ、基礎気分を**快適**に維持
4. **生活のリズム化**をはかるのに有効
5. 病的概念より**正常概念**に注意をむける
6. 病的な意志行為にむけられるエネルギーを**正常行為**におきかえる
7. 支離滅裂な行動を**正常な軌道**にのせる
8. 意志減退した患者の**活動性**を徐々に恢復
9. その成果が**満足感**を味わわせ、**自信**をとりもどさせ、劣等感を弱めさせる
10. 他人との**連帯感**を養わせ、**社会性**を回復、**他人への寄与的生活**を可能
11. 感染症や**疾病**に対する**抵抗力**をたかめる



ひとの一日は
さまざまな作業のいとなみ
そのいとなみを積みかさね
一人ひとりの生活や人生が
風合いの異なる織物のようにつむがれる
作業をいとなみ 作業がつむぐ
ひと その作業的存在
思わぬ病い
こころやからだの障害は
日々の作業のいとなみの障害となり
生活や人生のつむぎにはこころびをつくる
ひとにとって病いや障害とは
日々の作業のいとなみの障害
生活や人生のつむぎのほころび



失いそこなわれた日々のいとなみ
その再びのこころみが
ほころびを繕い
あらたな人生をつむぎなおす
作業をいとなみ 作業がつむぐ
ひと その作業的存在
ひとは生きるために作業する
作業すること成長し
作業することで不安を軽減し
生活を楽しむために作業する
作業療法の手段は
行住坐臥
ひとが日々行っている生活のいとなみ
生活行為

人間の一日は、さまざまな作業によって成り立っている。
病いや障害は、生活という視点からみれば、原因
が何であれ、生活における作業の障害

領域を超えて作業の原理を

特性 対象の状態とニーズに応じて作業や構造を組み替える

役割 生活機能評価 (心身機能、活動・参加状態、そして生活環境など)

生活支援機能 (機能障害の軽減、リハビリネス、生活技能の習得汎化
リハビリ支援) → **社会脳の働きup**

機能 ことばと作業により脳機能を直し、再学習

具体的な体験による心身機能の維持・回復 自己認識と行動変容

手段 ひとが生活するうえでおこなう生活行為

領域 医療、保健、福祉、教育、就労、他

ストレングスモデルに基づき 具体的な生活行為を通して
個々の生活機能を評価し 急性期はリハビリネス
回復期は生活とリハビリ支援 → **社会脳の働きup**

作業療法の特徴

種類	介入手段	特性
身体療法	薬物 手術など	physical
精神療法	言語	human verbal
作業療法	言語	man + physical + verbal

精神療法
精神分析療法
小精神療法
一般精神療法
認知療法

作業療法は、薬物による症状の軽減・安定を基盤に
対話型治療医学と相補し、作業の非言語特性と具体性、現実性などの
特性を活かし、それぞれの疾患や障害の病理特性を考慮した日常
生活や社会生活の支援をおこなう。

作業は広義の意味
OT、PT、園芸療法や芸術療法など

身体療法は症状の軽減、基本的心身機能の改善
言語を主媒介とする対話型療法は情動の安定と自己認知
作業療法は、具体的な体験による基本機能の維持改善、社会脳の機能向上

作業療法でもちいる作業

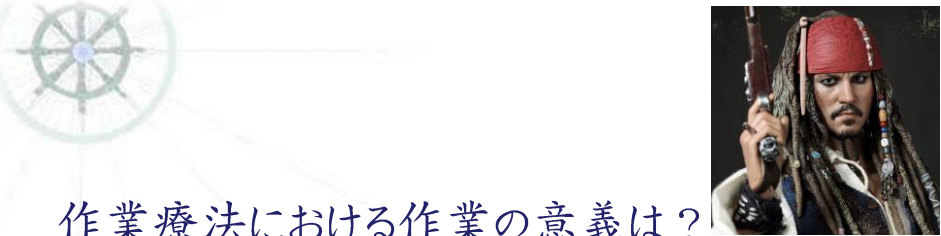
生活維持活動	〔 身辺処理 (ADL) 生活管理 (IADL)
仕事活動	職業 学業 家事 育児
遊び・余暇活動	〔 原初的遊び 余暇 社会的活動
社会生活関連活動	移動 情報伝達
休養・熟成	消化 精神身体的再生産

ひとと作業

ひとは生きるために作業し
作業することで 楽しみ 困難や不安を乗り越える

命を保つ	日常の自立に必要な作業(日常生活行為)
生きる	生きるための作業(採り、育て、料理、食べ、働く) 生き延びるための作業(神頼みのトランス、協働)
うまく生きる	自分の考えや気持ち表し伝える作業
ゆたかに生きる	豊かに生きるための作業(遊ぶ・楽しむ)

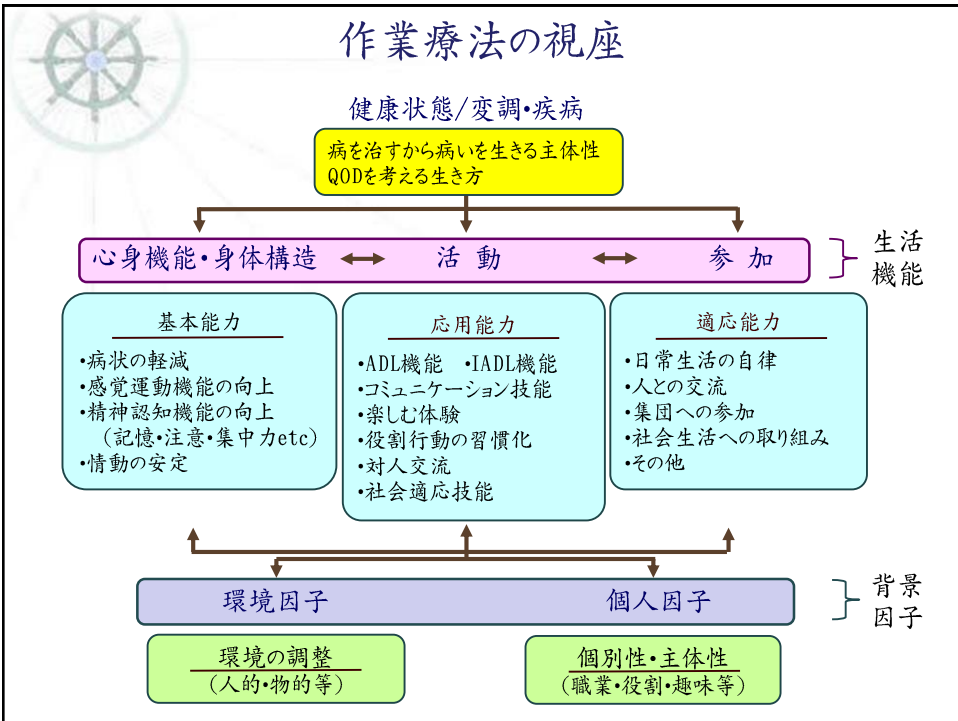




作業療法における作業の意義は？
作業をすることではありません

治療者と対象者が作業を介して関わる。そのプロセスを経て得られる対象者の生活行為における満足感や心地よさといった感覚的变化、それこそが作業の意義

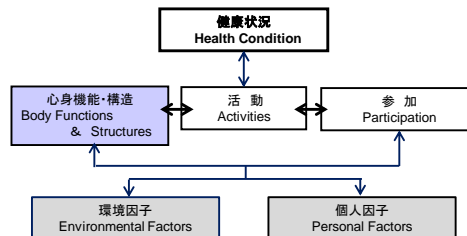
その意義が形になるかかわり
それこそが作業療法における「かかわりのコツ」



心身機能の治療



身体療法による病状の軽減
心身機能の維持・改善



- 思考の障害(妄想)
- 知覚の障害(幻覚)
- 自我意識の障害
- 意志・欲望の障害
- 感情の障害
- 認知機能障害
- 感覚運動機能障害

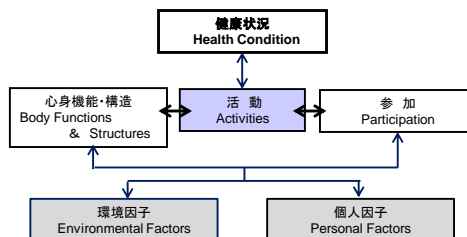
作業療法の役割

病的症状からの早期離脱
(服薬最少量による症状安定)
二次的障害(遷延)の防止
基本的心身機能の維持・改善

活動の支援



何ができないかより
どうすればできるか
できないことをできないままにしない



- 生活維持活動 [ADLの障害
IADLの障害
- コミュニケーション障害
- 対人関係技能障害
- 作業遂行技能障害
- 社会資源の利用制限
- その他の活動の制限

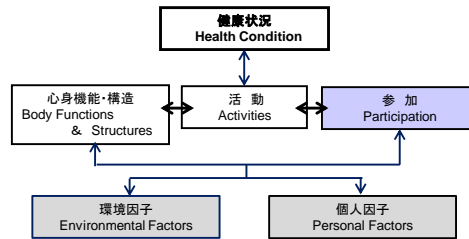
作業療法の役割

生活行為の再体験
生活技能習得
作業を介した認知行動修正

参加の支援



日常生活・社会生活への
関与に対する支援



- 家庭生活
- コミュニティライフ
- 市民生活
- 社会生活
- 就労・復職
- 修学・復学
- その他社会活動

作業療法の役割

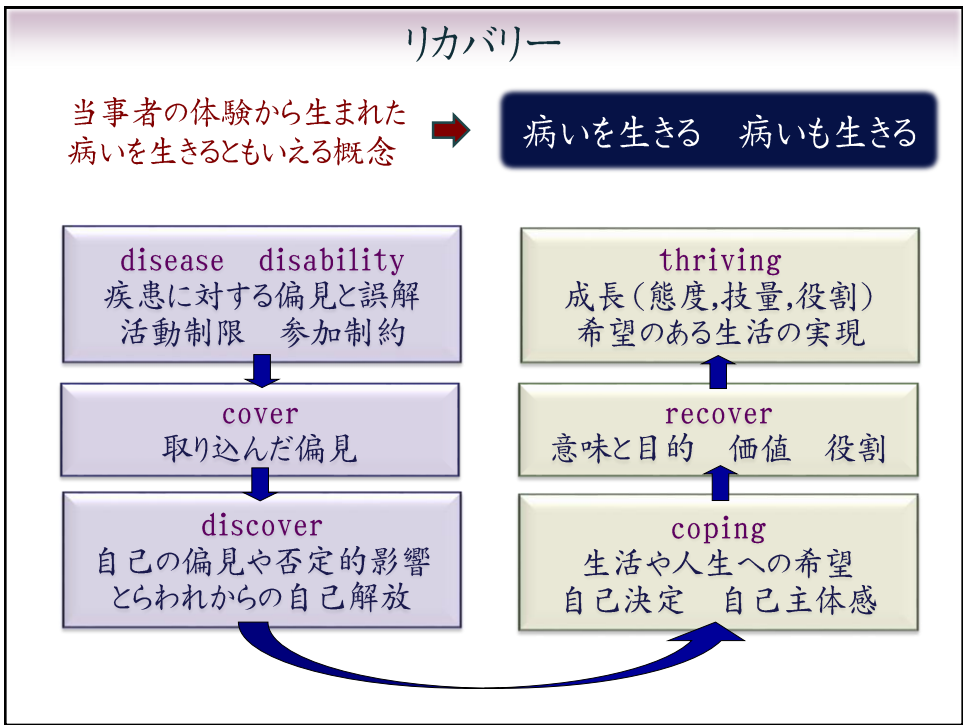
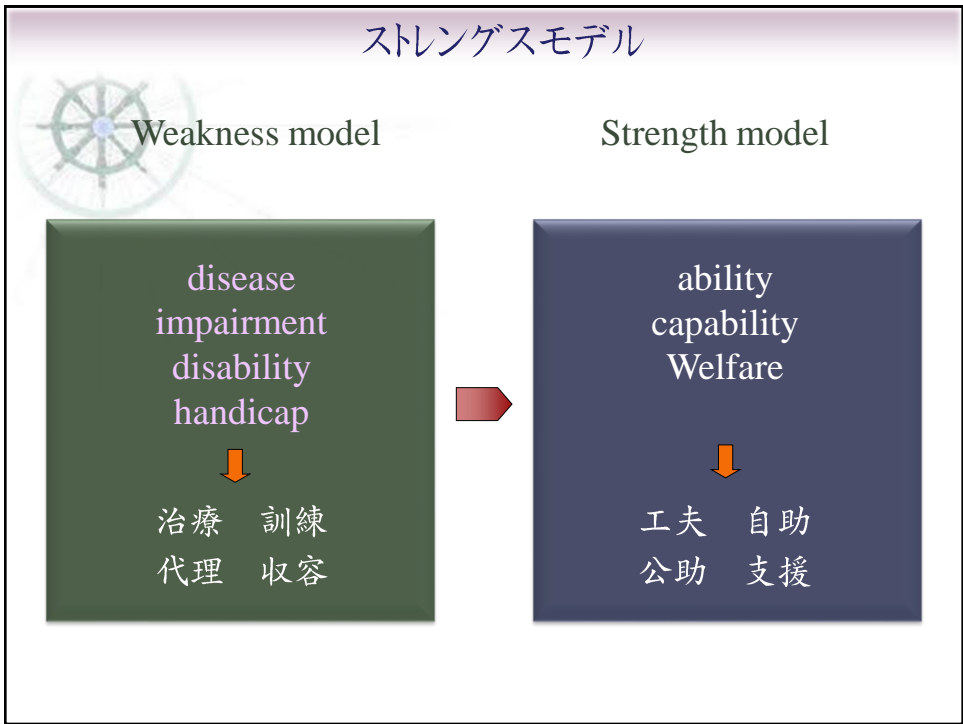
セルフコントロールの支援
習得技能の生活への汎化
リハビリ支援

作業療法の視座

ストレングスモデル	できないことよりできること
リハビリ	病いを生きる 病いも生きる
QOD	人生の締めくくり
生活行為の質	作業を楽しむ
作業とことば	ことばを生かす作業 作業を生かすことば
作業と脳・身体	ひとは身体としてある
知覚のカテゴリー化	ことばで括る



社会脳 生きるために必要な生活行為を適切にする脳



QOD : quality of death

医療・医学の進歩



疾病構造の変化
疾病と治療の帰結の変化



救命・延命 治療



生活の量と質 quantity and quality of life
終わり方の質 quality of death

ZI-ZI-YAMA WORLD

作業を楽しむ

作業療法は楽しい作業を提供することではなく
必要な生活行為(目的と意味のある作業)を楽しむこと
ここでボタンをかけ間違えると

生活行為(日々の作業)の質を高める



生きるには多少努力してもしなければならないことがある
必要なのはそうした生活の行為を楽しむこと
日々の作業(生活行為)として楽しむことができること



作業を楽しむ 作業することを楽しくとは？



もちいる作業は生活に必要な目的と意味のある行為
食事、入浴、整容、散歩、買い物、交流など
日常生活に関するものをまず
そして仕事、余暇など
生活を豊かにする作業へ



作業(生活行為)をもちいるには
まず作業療法の機能を
作業をすることが意味ある体験として残る関わり
作業を生かすことばとことばを生かす作業が必要

-YAMA WORLD

作業療法の効果

対象者が主体的に取り組み、試み、その人なりの生活を見出すことができるよう、具体的に作業体験の場を提供し、共有体験を通して援助する作業療法の二つの効果を視野に！


客観的な効果

心身機能の維持・回復
活動の制限の改善・解消
参加の制約の調整・解消

主観的な効果

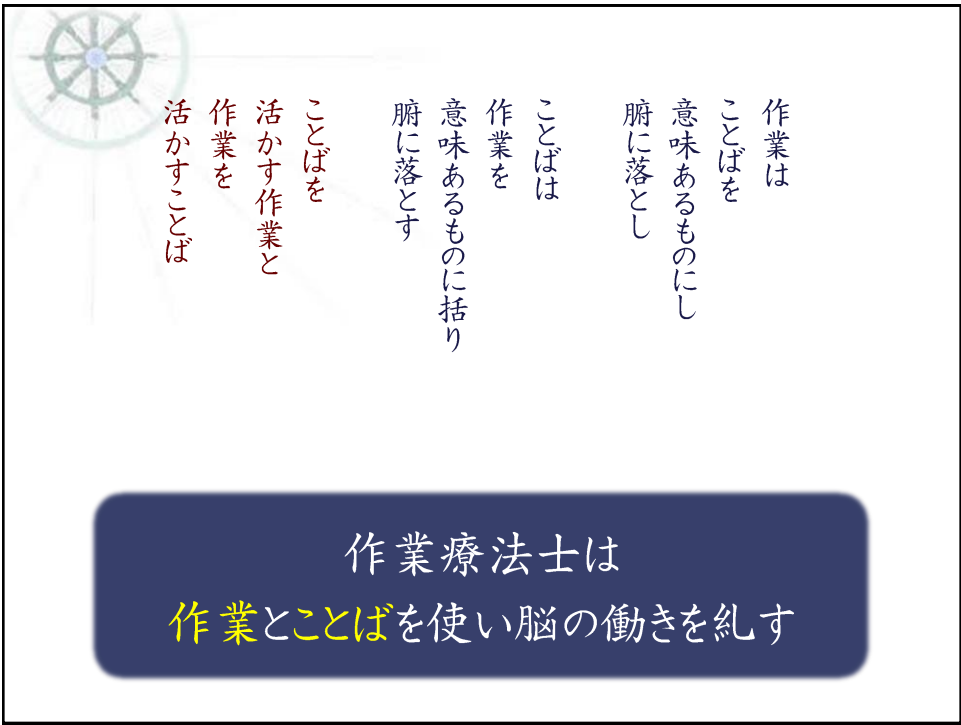
安心感 確からしさ
リハビリ感 生きる望み
共生者の心身の負担軽減

-YAMA WORLD



作業療法って？
作業の意義
作業療法の視座
作業療法と脳機能
作業療法の効用

ZI-YAMA WORLD



作業は
ことばを
意味あるものにし
腑に落とす

ことばは
作業を
意味あるものに括り
腑に落とす

ことばを
活かす作業と
作業を
活かすことば

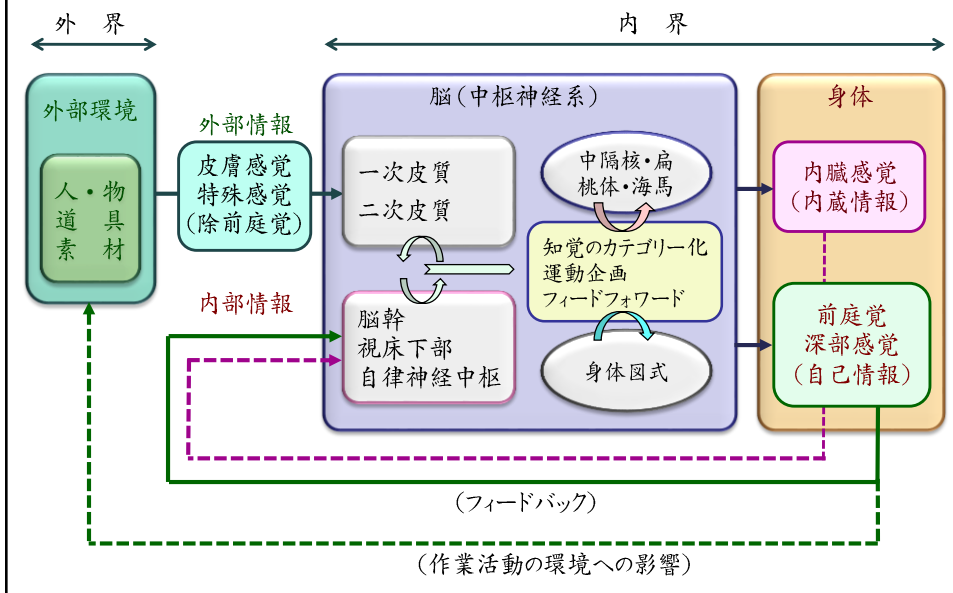
作業療法士は
作業とことばを使い脳の働きを糾す

病は事故はとりは
 自ざと身体は身体
 乖離を引ずる身体
 生活に支障をきた
 その身体を通して
 無察の高は他者
 産産は知実現する
 私を知るは
 だれのものでもない
 秘の身体を通して
 私だ世界の身は関係
 容すいきことを判断
 身傍の過い他者
 その思いを実現す
 私が或るというこ
 それは
 私という身体を
 私が生きていくとい

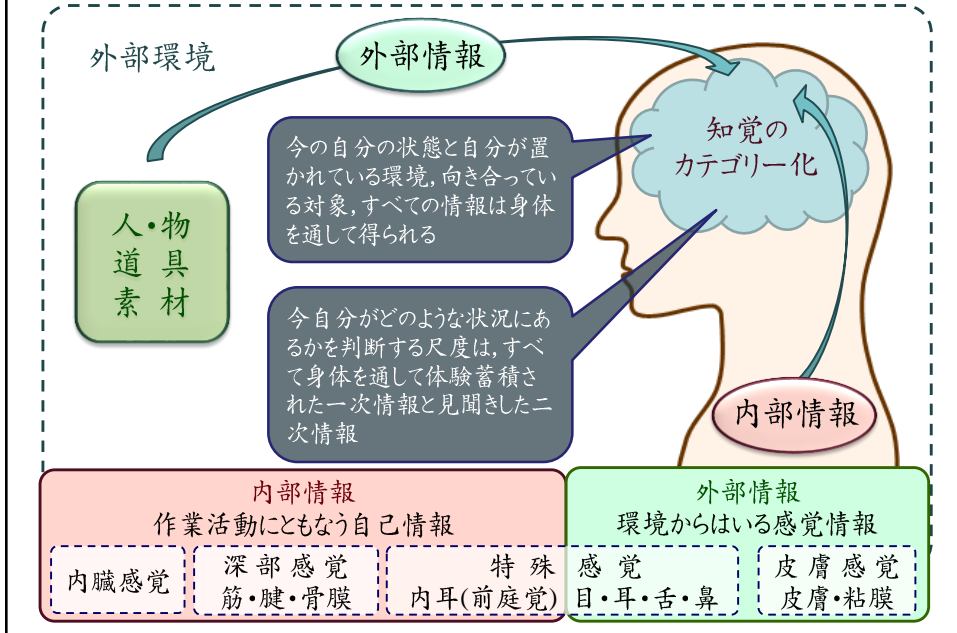
脳は身体から得る情報により考
 身体は作業により情報を確かめる



知覚のカテゴリー化



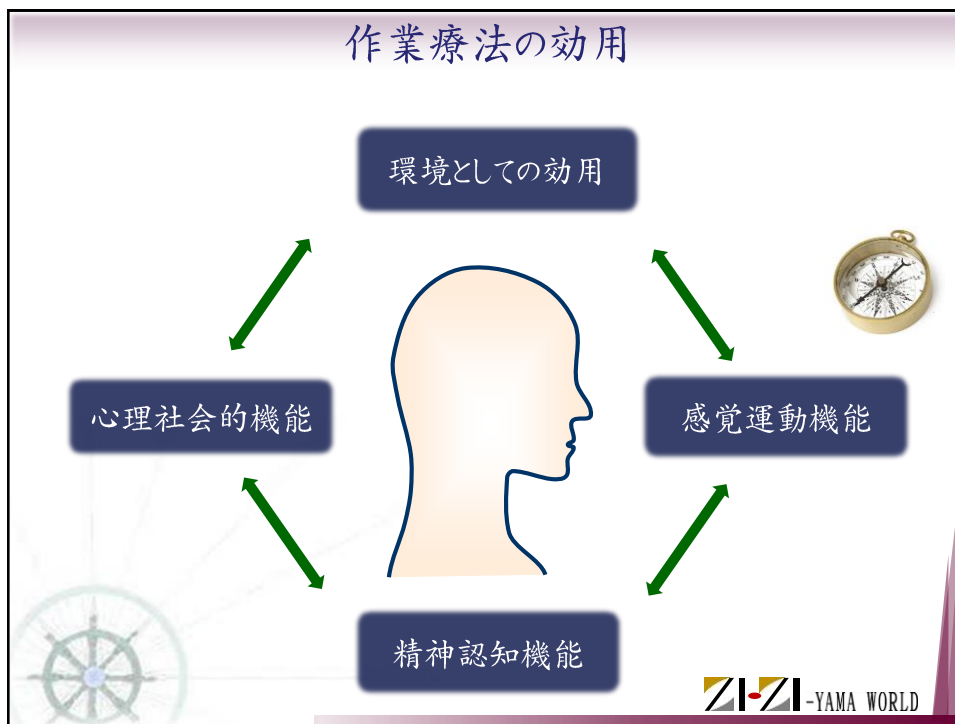
知覚のカテゴリー化



ひとの惑いに
かかわる者に
求められるのは
賢しき
知識より
ひととしての
深み
ひとの痛み
にかかわる者に
求められるのは
賢しき
理性より
ひととしての
深み
ひとの暮らしに
かかわる者に
求められるのは
賢しき
聡明さより
ひととしての
深み

作業を楽しむ 作業することを楽しくするには
作業療法士が生活を楽しむことができる必要がある
楽しい生活だけでは生活を楽しむことはできない

作業療法の効用



環境、感覚運動

環境	心理的効用	安心感, 落ち着き, 安らぎ, 気分転換 疲労軽減, 作業効率の向上
	物理的効用	緑陰効果, 減音・遮光効果 防風・防火効果, 視覚疲労緩和
感覚運動	感覚機能の改善	
	聴覚と前庭機能の改善	
	固有覚機能の改善	
	音声と発話機能の改善	
	音声, 構音, 流暢性, リズム	
	自律神経系の賦活	
	循環器系の機能の維持・改善	
血圧の安定, 全身持久力, 呼吸機能, etc.		
神経筋骨格と運動機能の維持・改善		
→ 筋骨格構造, 関節可動域		
→ 姿勢保持, 歩行, 巧緻動作, 目的動作の協応性		

精神認知、心理社会

- 精神認知
 - 全般的な精神機能の改善
 - 意識, 見当識, 意欲, 知的機能, etc.
 - 個別的精神機能の改善
 - 注意, 記憶, 精神運動機能, 知覚, 思考, etc.
 - 情動のコントロール
 - 高次認知機能の賦活・改善
 - 言語に関する精神機能
 - 統合的精神認知機能の改善
 - 適度な鎮静と賦活, 不安・痛み・疲労の軽減
 - 情動の適応的発散(カタルシス, 発散, 気分転換)
 - 自己愛・基本的欲求の充足, 自己開放
 - 普遍的体験, 回想と希望
 - 達成感, 有用感・有能感の充足, 自信の回復
 - 自己能力の現実検討, 自己認識, 自己概念の育成
 - 身体自我の強化, 身体図式の形成
- 心理社会
 - コミュニケーションの改善
 - 課題遂行機能の改善
 - 対人機能の改善